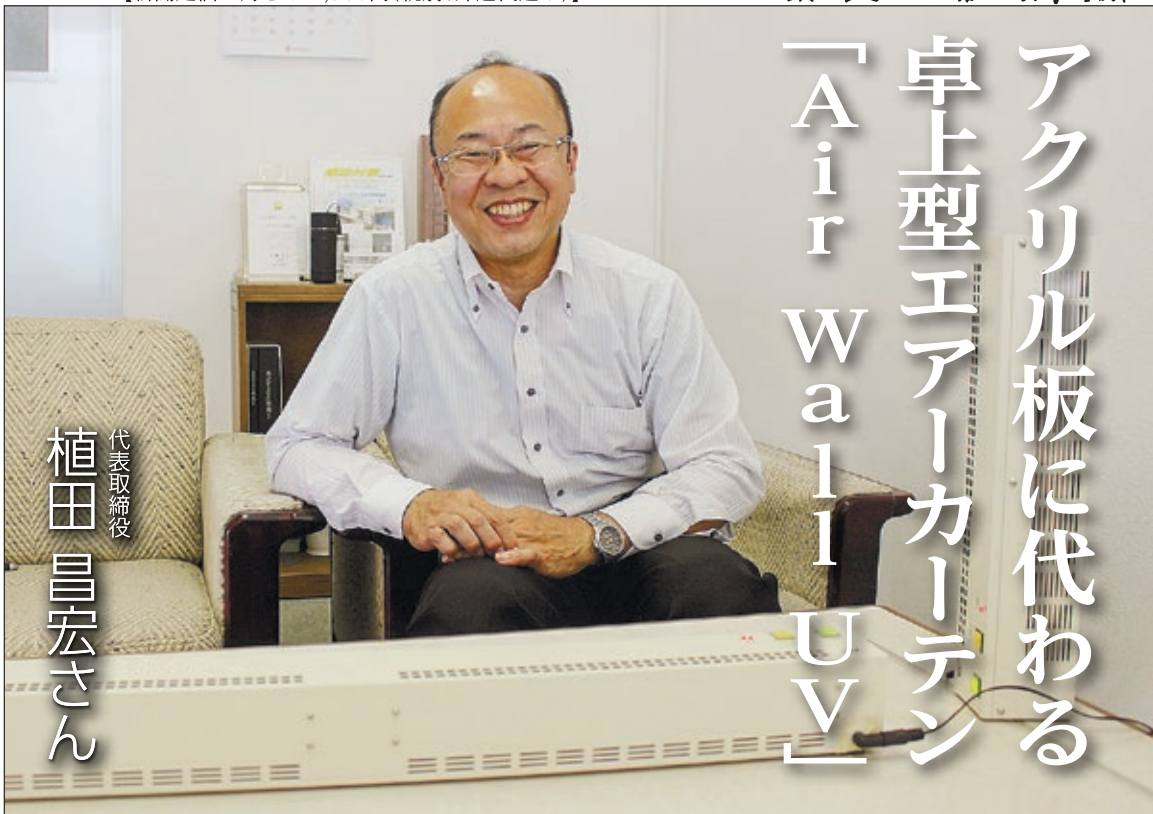




代表取締役
植田 昌宏さん

「Air Wall UV」 卓上型エアーカーテン アクリル板に代わる

電子機器の製造を行う桜井市吉備のヤマトクリエイト株式会社は、新型コロナ対策として、60センチの吹き出し口から風を送り、ウイルスを99.8%遮断する空気の壁「Air Wall UV」を開発した。アクリル板を設置する代わりに卓上型エアーカーテンで、深紫外線照射により空気の除菌効果を生み出す。代表取締役の植田昌宏さん(58)は「オンリーワンの企業になるためには、やはり自社商品の営業強化が大事」と次なる新商品も視野に入れながら、開発展開に意欲を示す。

Made
in
奈良

桜井市 ヤマトクリエイト株式会社

創業者は父親の修司氏。勤めていた旧松下電器産業(現パナソニック)系列の電子機器製造会社が倒産したのを機に創立。創業当時は、大手の下請けが中心だったが、徐々に自社商品づくりに移行。

昭和63(1988)年に大和工業電子株式会社から、現在のヤマトクリエイトに社名変更した。

「登記簿上は天理市檜垣本に本社を置いて、桜井市吉備に全て事業を持ってきたということになります」と話す植田さん。そして、父親が亡くなる1年前の平成27(2015)年に事業承継した。

ところが、3年前に新型コロナウイルスが…。それまでは電子機器業界自体に大きな波がなく、ある程度安定した動きがあったという。しかし市場は、中小企業が担っている小さな産業機器分野にも、大手が着手するようになってきた。

「大手さんがドンと入ってくると、その規模をゴッソリ取られるわけですから、仕事の流れが変わってきだしたということです。仕事自体が全体的に薄くなってきているという中で、自社商品を作っていかなければならないなと思って、いたところでした」と説明する。

自社商品の3本柱は、コンピュータやロボットなどの一般電子機器用電源装置、レントゲンなど高圧の電源に使う医療機器、紫外線などを当てることによって硬化する樹脂の光源用電源装置―の各産業機器分野。

「うちは放電化、光源を出す電源をメインとした内容です。新型コロナウィルスが出てきたわけですが、何かその技術で自社商品を作って販売していかなくてはなりません。企業相手の事業展開(BtoB)から、本当にお客さんとの販売活動(BtoC)に事業展開をしていこうという形になってきています。ただ、メインとしては今まで培ってきた内容で7割、新しい分野で3割稼げたらなと思っています」と率直に話す。

それで出来上がったのが「Air Wall UV」という機器。「対面での会話で、コロナ対策としてアクリル板、ビニールカーテンなどが出てきました。どうしても声が聞こえ



●開発した「Air Wall UV」の大(手前)と小●深紫外線LEDにより、空気が遮断された実験

浄化された「空気の壁」で飛沫対策だけでなく 深赤外線照射で菌・ウイルスを99.8%遮断



線など、アクリル板が敷かれることによって、お客さんの顔がはっきり見えないとか、反射するとかいうようなことがあるんで、これを商品にしようと考えたのです」と胸の内を明かす。

機器の中に紫外線のLEDを搭載することによって、循環する空気を殺菌、単なるエアーという付加だけでなく、空気中のウイルスを死滅させる効果を生む。空気の循環中に深紫外線照射で菌・ウイルスを除菌し、その空気を送風するという仕組みだ。

「湿度などがありますから、あえて風量をきつくしていないのです。ある程度のところでスッと落ちるような状態。一応、商品自体は強弱できるようにしていますが、きつくしてしまうと周りに余計に飛ばしてしまうことになるます。それ

なりの風量に合わせているということですよ」と話す。

今年3月に販売され、引き合いは20、30件。値段は小さい方が5万7200円(税込)、大きい方は8万2500円(同)。フィットネスクラブ、飲食店、工場の受付事務などに設置しているという。

植田さんは「デモストレーション」や講演会のときに持ってきて貸し出してよ、という声があります。この辺は初めて販売するものですから、いかにしてその商品をお客さんに触れていただくかということが大事です」と話す。

近い将来、リース業者との契約やネット販売での営業も考えている。ただ、電子部品がなかなか入ってこないという実状もあり、「ネットにあげた場合、メーカーが初めて出す商品に注文が来たとき、『6カ月待ってください』ということでは致命的です」と、今は慎重姿勢を崩さない。

開発した新商品の営業強化の面では、こういった形で商品を広げていくか、というのが植田さんの今一番の悩みの種。モノづくりに対して、東京や京阪神での展示会での出展。「コロナの関係で本業もそうなので、すけど、会うことができませんのでね。訪問して雑談する中で広がる場所があるのですね」と話す。

目標として、検査を済ませて2、3カ月後に形にしようと思っている新商品があるという植田さん。「やはり電子機器の製造、電源メーカーとしてオンリーワンになっていきたいです。自社の新商品の立ち上げで、当社のネームバリューを上げていながら、商品展開を進めていきたいですね」と目を細める。



○創業=昭和46(1971)年1月
○代表取締役=植田昌宏
○従業員数44人
○資本金1200万円
○電子機器製造業
○本社・RDセンター=天理市檜垣町201
○吉備生産センター=桜井市吉備567-1
○電話番号=0744(49)3111
○ファクス=0744(49)3112

あるという植田さん。「やはり電子機器の製造、電源メーカーとしてオンリーワンになっていきたいです。自社の新商品の立ち上げで、当社のネームバリューを上げていながら、商品展開を進めていきたいですね」と目を細める。

そんな思いの中に、SDGsの17の目標を忘れない。「7月は新しい期の始まり。7月の方針発表のところで『SDGsを考慮しますよ』と、従業員に発表をしました。一つ一つ今やっているものに対して、SDGsのどれが当てはまるのか、ということをもっと洗い出してみること。これをより確実にしていくこと、幅広く広げていくこと、幅広く広げていくこと、一つ一つ積み上げていければ良いなという考えです」と締



<http://www.yamato-cr.co.jp/>